

【施策評価について】

まず、平成29年度決算の資料となっている「施策評価結果」について、順次、質問いたします。

まず、施策評価の目的について、お伺いします。

冊子の説明では、施策評価の目的について4つ示されています。

一つ目は「総合計画・総合戦略の進捗確認」、二つ目は「効果的・効率的な施策の推進」、三つ目は「意識の共有」、四つ目は「市民の市政参画の推進」です。

二つ目の「効果的・効率的な施策の推進」の記載に、「事務事業評価に加え「施策」という一段上位のくりから俯瞰的に眺めて分析し、事務事業の重複度合いや優先度を評価することで、事務事業のスクラップ・アンド・ビルドを行うなど、より効果的・効率的な施策の推進を図ります。」とあります。

平成29年度の評価において、事業の重複や優先度の評価によって、事務事業のスクラップ・アンド・ビルドにつながる事例はどのようなものがありますか。具体的にお聞かせください。

次に、三つ目の「意識の共有」の記載に、「本市の置かれた状況を認識し、施策評価を通じて、施策の目標や抱える課題を市長から担当者までが共有することで、職員一人ひとりが目指すべき方向性を意識し、事務事業の改善や新規政策の立案につなげます。」とあります。

「施策評価結果」の作成にあたり、市長と職員が十分な協議を行ってきたと思います。

冊子の完成に至るまで、どの程度の人数や時間を費やしたのでしょうか。作成を始めた時期や、市長と直接協議を行った職員の数について、お聞かせください。

また、「施策の目標や抱える課題を市長から担当者までが共有する」とありますが、施策の目標や抱える課題の担当者までの共有方法について具体的にお聞かせください。現時点において、職員のうちのどの程度が記載内容について認識をしているのかもあわせてお聞かせください。

次に、担当局評価と施策評価結果との関係についてお伺いします。

冊子の記載によると、評価方法として、「担当局評価」は一次評価で、「市民意識調査や目標指標の進捗状況等を踏まえた、施策の主たる担当局による評価」、「施策評価結果」は市長評価で、「施策の主たる担当局による評価を受けての市長による評価」とあります。施策ごとの内容を見ると、「担当局評価」には、分野ごとに「成果」と「課題」が記載されており、平成29年度の取り組みが総括されておりますが、市長評価である「施策評価結果」には、「事業の現状」や「成果」、「課題」、「今後の取り組み」、「新たな提案」などが順不同に並べられており、記載の量も様々であり、その分野に対する「市とし

での総合評価」なのか、市長個人の評価としての「市長評価」なのか、理解に苦しみました。「担当局評価」と「施策評価結果」との関係について、より具体的にわかりやすい説明をお聞かせください。また、「施策評価結果」が「市としての総合評価」であるならば、その内容について、市長と担当部局との間でしっかりとした議論はなされたのでしょうか。あわせてお聞かせください。

【施策評価の市民意識調査について】

次に、施策評価の市民意識調査についてお伺いします。

満15歳以上の市民から無作為で2,500人を抽出し、今年2月から3月にかけて実施された調査について、実発送数2,481人、有効回答数673人、有効回答率27.1%という結果を、どう評価していますか。お聞かせください。

この市民意識調査は、市の最上位計画である後期計画の16の施策について、市民意識を把握するための重要な調査ですが、この有効回答率の低さは、市民の市政への無関心さを表していないでしょうか。市政に対する「満足」や「不満」といった意思表示すら、多くの市民が行わない、市民自治にはほど遠い現状を、市長はどのように認識していますか。お聞かせください。

【平成31年度に向けて特に重点的に取り組む項目について】

次に、平成31年度に向けて特に重点的に取り組む項目についてお伺いします。

まず、地域振興体制の再構築についてお伺いします。

地域振興体制の再構築を目指し、市は若手職員を長野県飯田市に派遣してきました。飯田市は、面積約658平方キロメートル、総人口約10万人、世帯数約4万世帯で、尼崎市と比較すると、面積は十数倍、一方で人口は4分の1以下、さらに世帯数約4万世帯のうち1割を超える4,500戸が農家という、尼崎市とは面積や人口、住民の職業に至るまで、全く異なる都市です。今年度も継続して職員を派遣しており、その理由として、「住民の自治活動を支援する職員としての姿勢や役割を体験的に学ぶため」としています。学ぶことは良いことですが、様子が全く異なる都市で学んだことを、どのように来年度重点的に取り組む施策に活かすのか、再整理が必要ではないでしょうか。

改めてお伺いします。

尼崎市の類似都市ではない飯田市を職員の派遣先に選んだ理由は何でしょうか。ま

た、これまで派遣した職員は、飯田市で何を学び、都市の様子が異なる尼崎市でどう活かそうとしているのでしょうか。派遣された若手職員が、取り組みの中核を担っていくことができるのでしょうか。派遣の背景とその成果、活かし方について、お聞かせください。

次に観光施策についてお伺いします。

尼崎城の完成を契機とした観光地域づくりについて、「平成30年度主要事業」からも今回の「施策評価結果」からも、城内地区周辺の整備のみがクローズアップされ、他の地域の観光資源は、まるで放置されているように思えます。地域振興と言いながら、尼崎城と関係がない限り、おそらくこれから数年間は十分な整備もされない他の観光資源について、市はどのように考えているのでしょうか。私が住む園田地域でも、田能遺跡や農業公園など、整備の仕方によっては素晴らしい観光資源として活かすことができる施設があります。他の地域でも状況は同じだと思います。地域振興や観光施策を重点的に取り組む項目とするのであれば、ぜひ、それぞれの地域にある観光資源にもしっかりと目を向け、予算を割り振って整備し、市内全域を視野に入れ、尼崎を周遊することができるような観光施策を構築してもらいたいと思います。市の考えをお聞かせください。

#### 【災害への対応について】

次に災害への対応についてお伺いします。9月の台風21号による市の災害対応については、一般質問においても多く取り上げられました。まさに、尼崎市政にとって想定外の長期間の停電・断水で、様々な都市における災害に学び、想定外にも対応することが市政に求められることであるにも関わらず、行政として課題や反省することが多い災害となりました。台風21号による災害の前に作成された「施策評価結果」には、「今般発生した災害で見えた課題等を踏まえ、災害対応力の向上により一層取り組んでいく。」との記載があります。

お伺いします。

どの災害でどのような課題が見えたのか、具体的にお聞かせください。

災害はいつ発生するかわかりません。様々な計画を作り、被害を想定し対応していくことは大切です。しかしながら、言われて久しい「想定外」への柔軟な対応ができるよう、一日も早い課題の整理と対応をお願いします。

【来年度の予算編成について】

次に、「施策評価結果」を踏まえた来年度の予算編成についてお伺いします。

「施策評価結果」は来年度予算に反映することですが、その結果だけでは、特定の範囲への予算の偏りが心配されます。スクラップ・アンド・ビルドで対応できる分野もあれば、それでは対応できない分野もあると思います。予算の編成にあたっては、今回の施策評価結果だけで判断するのではなく、状況に応じた柔軟な対応を期待します。

お伺いします。

来年度の予算編成について、現時点での方向性についてお聞かせください。

「公共施設マネジメントについて」

最期に、現在、本市公共施設の維持保全の管理はそれぞれ施設の担当局の所管課で行っており、その数は約60あります。来年度から本市は課長級職場として公共施設保全担当を設置し、施設情報の一元管理の中心的役割を担い、現在、各施設管理者が実施している維持管理の技術的支援を行なうなど、施設における維持保全を統括管理されとの事ですが、この統括管理によって具体的に今までと何がどのように変わるのでしょうか

以上で私の質問を終わります。